

学校にいけない・いかな子をもつ

親同士がつながる場

解決できる場ではないけれど、それを目指す一端となることを願って開催しています（事務局）

ー 令和3年9月に参加された保護者の声をお届けしますー

子どもさんとの関係性は、親子・家族・友だち・学校それぞれに悩みがあると感じた回でした。

「一人でがんばっちゃうとしんどくない？」

どの家庭でもそうですが、親子であっても相性はあるものです。父親には何も話さない子、伝える内容を父母で分ける子、親には多くを語らない子。ひとり親家庭だとまた事情は違うかも知れません。

普段はそんなものだと割り切ることができて、不登校などの課題を抱えた時にはそれが不安や不満となって出てくるのかも知れません。

参加者からは、パートナーに気持ちを伝えてみる、面と向かって言いにくければラインで伝えるなどのアドバイスが出ていました。また、こういう場に来ると、子どものことも客観的にみられるかも知れないと話合っていました。

「担任の先生は、クラスの子に(うちの子のこと)なんて説明してるんやろ？」

正直な気持ちだと思いました。

不登校にもいろんなタイプがあります。

長く休んだままになっている。週に何度か顔を見せる。午前中だけ来ている。夕方になると登校する。

保健室で過ごしている。クラスにいるけど違うことをしている。行事には参加できる。

他にもまだまだ多様だと思います。子どもさんも親御さんも、お友達との関係も気になるところです。

これだけ多様でナーバスなことだと、先生方も伝え方に苦慮されているのではないかと思います。

学校の中でそれぞれの不登校になっている子どもたちについて、どんな風な話し合いがされているのかも、今回のつながる場では話題にあがりました。担任の先生とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが親御さんや本人も交えて話をしている学校もあれば、そういった形のないところもあります。

「担任の先生一人が抱えているんじゃないやろうか？」

親御さんたちも学校現場の多忙さは十分に理解しています。

学年をまたぐと新しい先生との関係づくりに悩むこともあるようです。不登校なので子どもさんと担任の先生が関係を築く時間は圧倒的に足りないのはもちろん。その中で、どんな風にすれば子どもたちが学校に行こうと思えるのか、親御さんも一生懸命考えています。

宿題を届けてくれたり、電話をくれたりして、少しずつ先生との関係ができて、親御さんを介さなくても子どもさんが先生と会話できるようになると学校へいけるようになった。というお話もありました。

ワンポイント
アドバイス

不登校・引きこもり研究者
同朋大学 川乗准教授

以前に比べて、否定的な言葉が少なく中立的な言葉が話し合いの中で増えてきた印象があります。

これはいいことかと思います。否定的な言葉を発すると、それは習慣となって子供と関わるときも無意識に出ることが多くなるでしょう。自然と意識せずに肯定的・中立的な会話ができるといいですね。

学校へいけない・いかな子をもつ親同士がつながる場

奇数月の第3日曜日 午後1時30分～3時頃

AGALA2階（箕島本町商店街東入口付近） 駐車場有：AGALA東隣

事務局：有田市社会福祉協議会（宮本） TEL 0737-88-2750

mail aridashi.shakyo@gmail.com